

「米材製品」

米材製品担当
株式会社長谷川萬治商店
殿山 清誠

米材製品の産地はというと、当然、米(アメリカ)ということなのですが、今回書かせていただくのは、米樺、米松の針葉樹製品についてです。

米材針葉樹製品は、アメリカ太平洋岸のワシントン州、オレゴン州、カリフォルニア州、アラスカ州とカナダのブリティッシュ・コロンビア州を加えた5州から産出されています。

現在入荷している製品の主な産地についてですが、米樺はカナダのブリティッシュ・コロンビア州から、米松はアメリカのワシントン州とカナダのブリティッシュ・コロンビア州からとなっております。

用途については、米樺製品については主に母屋、桁、注入土台(GRN、KD)、筋交い、根太、垂木などに使われます。米松製品についても母屋、桁、注入土台(GRN、KD)、筋交い、根太、垂木に使われております。米松というと平角を思い浮かべるかもしれませんが、現在は、平角は製品での入荷は殆どありません。

私は平成元年に入社いたしました。

間屋組合の組合員の皆様に大変お世話になり30年間仕事を続けてこられた訳ですが、入社当時から現在に至るまで米材製品を扱って参りましたのでその間の米材製品の移り変わりについて書かせていただければと思います。

入社した平成元年(1989)は、バブル時代で入社したばかりの私でも諸先輩方に変なご馳走して頂いた思い出のある良き時代でした。

今でもチョクチョク諸先輩方には、ご馳走になっているのですが！！

この頃は、GRNの米樺製品全盛期でした。三井物産さんはポータック(アメリカ)、三菱商事さんはメイヨー(カナダ)、伊藤忠商事さんはシーパー(カナダ)等、日本の商社さんの資本が入った現地製材工場からの入荷が多くあり、間屋はそれぞれ、ポータック会、メイヨー会、シーパー会とグループを作り、ある程度販売権を有して商売をしておりました。

首都圏では、注入土台、大壁柱、母屋、桁、間柱、筋交い、根太、垂木等と木造住宅の梁以外の殆どものは、GRNの米樺製品で賄っていました。

柱材の中には、無節の材も入っており、販売先では選別し無節材を造作用に販売される材木店さんもいらっしゃいました。無節材の混入が少ないと今回は物が悪いと怒られることもありましたね。今だから言いますが、私は大壁柱を売ったのに文句言わないでよと思っていました。

この時期に何故、GRNの米樺製品が主流であったのか？

当然、桧や杉の代替品として、日米貿易摩擦を背景に円高により米材製品の入荷が増え続けていたの

ですが、現地でも余り用途が無い米母が安く入手出来た為だったようです。

GRN 米松製品においては、大量に安価な木材が必要な首都圏では米母製品が使われ、地方では昔から馴染みのある米松が好んで使われておりました。

一方でアメリカでは、環境問題が深刻化し国有林の伐採が大幅に削減されることになりました。

ポータック社(アメリカ)の製品を扱っていた弊社では、ポータック製品の品質が落ちて販売に苦勞し、取り扱い数量をカナダ材にシフトしていきました。

私が入社したときには、弊社にプレカット工場が出来たばかりでしたので、プレカット工場が出来始めたのもこの頃からでした。

その後、バブルが崩壊するもののアメリカからは、国有林野の伐採規制による影響で米材製品の入荷は減少したが、円高の影響や米国産丸太の高騰により国内挽き米材製材品より、カナダからの輸入製品が競争力を増しカナダ材がそれ以上に入荷の伸びを見せ平成8年(1996)まで米材製品の入荷量は増え続けました。

マックミラン社やシーボード社では、毎年のように現地視察ツアーが開催され入社間もない私もツアーに参加させていただいたことがあり、初めての海外出張が嬉しくてたまりませんでした。現地視察では、カナダの製材工場の規模の大きさとスピードにびっくりいたしました。

その後、平成9年以降は米材製品の輸入数量は、右肩下がりとなっていきますのでありますが、その要因は、アメリカ国内の好景気やサブプライムローンなどによりアメリカ国内の住宅着工が好調であり、米加ともに原木価格が高騰したことにより製品高を招きました。

日本国内では、高価な米材製品に変わり欧州材がシェアを増やし始めました。また、プレカット工場の台頭により、KD材や集成材とより精度に優れた製品が必要となってきたことも、欧州材がシェアを伸ばした要因であります。

一方、アメリカ国内が好景気であったため、現地製材工場は、GRN材でも販売が好調で、KD化への対応が遅れてしまいました。

これにより、さらに日本での米材製品のシェアを欧州材に取られることとなりました。米母のKD化が難しいことも要因であると思います。

その後、米材製品のKD化も進み、注入土台、母屋、桁、筋交い、垂木においては、ある程度のシェアを確保してまいりましたが、リーマンショックがあり、これまでアメリカ向けが好調で大幅な設備投資を進めてきたカナダ製材工場は大きな打撃を受けることとなりました。ここで大きく活躍したのが中国マーケットです。日本はリーマンショックの影響を受け、住宅着工数を大幅に下げることとなり、輸入量を大幅に下げることとなりました。

これ以来、カナダ材の主要販売先であった日本は、大きくその地位を落とすこととなりました。

一方では、アメリカ産の米松KD製品は、コロンビアビスタ社やマンケ社などが、一定のシェアを確保し今日に至っております。

米材製品で私の評定品目に入れていないSPFについてですが、こちらは、相場の上げ下げはあるものの、ここ20年以上年の間入荷数量は殆ど変化がありません。

ツーバイ工法が一定水準で安定していることや、DIY向けにも安定した需要があることが要因かと思
います。

以上、私を知る米加材製品の30年間でした。



●樹種名

ヘムロック hemlock

[その他の名称]

ウエスタンヘムロック、ベイツガ・ベイトガ 【米樺】

●科目

マツ科ツガ属の常緑針葉樹

学名：Tsuga heterophylla Sarg.



●樹種名

ダグラス フェー Douglas fir

[その他の名称]

ベイマツ 【米松】、オレゴンパイン(Oregon pine)、ダグ
ラススプルース (Douglas spruce)、イエローファー
(Yellow fir)、レッドファー (Red fir)、古木の良材を
ピーラと呼ぶ。

●科目

マツ科Pseudotsuga 属の針葉樹

学名：Pseudotsuga menziesii